

今週（7月18日から7月21日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が350兆円台後半で推移する中、無担保コールO/N物は積み序盤となったことから、やや軟調に推移した。

無担保コールO/N物は、週を通して都銀・信託▲0.075～▲0.07%、証券業態で▲0.07～▲0.055%、地銀業態では▲0.065～▲0.045%の調達を中心となった。積みの序盤であることや、レポGCレートの低下から様子見姿勢が強く、先週対比でレート低下となった。20日の日銀金融政策決定会合の結果発表後も目立った動きは見られず、週を通して横ばいの展開であった。ターム物は地銀業態で1～2Wの▲0.045～▲0.04%の出合いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、20日に2W・8,000億円でオファーされ、落札額1,311億円（期落ち額1,300億円）の札割れとなった。

日銀金融政策決定会合は19～20日の日程で開催され、金融政策の現状維持が決定された。また、物価上昇率2%程度の達成時期を「2018年度頃」から「2019年度頃」に先送りした。

●レポ市場

今週のO/N GCは新しい積み期となったことで、資金運用・調達サイド共に投資家のニーズが大きく落ち込んだため、レートは低下。引合い自体も閑散としており、動意の少ない状況が続いた。

週初18日のT/Nは▲0.085～▲0.08%程度の出合い、S/Nは▲0.09～▲0.085%程度の出合い。翌19日のS/Nも▲0.09～▲0.085%の出合いとなっており、それ以降もレートに動きは見られず▲0.09%前後の推移となった。

SCについては引き続き10yの330番台でタイトなレートで取引される銘柄が多く見られた。個別銘柄では5y 130～132、10y 333～347、20y 158～161、30y 50～55、40y 9～10などにビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、海外勢を中心とした店頭での買い需要や短国買入オペ期待からか、週を通して堅調な地合いとなった。

新発の入札は、18日に1Y物、19日に3M物が実施された。1Y物の入札では、WI取引で▲0.115%の出合いが見られる中、結果は平均落札利回▲0.1158%、按分落札利回▲0.1138%と堅調な入札となった。3M物の入札は、WI取引で▲0.113～▲0.111%での出合いが見られ、結果は平均落札利回▲0.1106%、按分落札利回▲0.1082%と順調な入札となった。

短国買入オペは21日に事前予想通りの1兆5,000億円で実施された。平均落札利回較差▲0.010%、按分落札利回較差▲0.019%と、好需給を反映した強めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、7月下旬になり、四半期末を越えた発行や賞与手当の発行が一服したため総じて閑散なマーケットとなった。週間発行総額は4,100億円弱、週間償還総額は2,600億円程度となり、市場残高は若干増加した。引き続き投資家の資金運用ニーズは底堅く、発行レートは0%近辺での決着が中心。9月末越え物では、浅いマイナス圏での決着も見られたが、市場残高が増加していることや、CP等買入オペが甘めに決着していることを受けて、一部の銘柄では、小幅上昇するものも見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/17 (月)						
7/18 (火)	19,999.91	0.065	112.20	△ 0.055	△ 0.082	3,567,300
7/19 (水)	20,020.86	0.070	112.05	△ 0.055	△ 0.087	3,584,500
7/20 (木)	20,144.59	0.070	111.84	△ 0.056	△ 0.087	3,575,200
7/21 (金)	20,099.75	0.065	111.95	△ 0.055	△ 0.083	3,574,700

来週（7月24日から7月28日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
7/24 (月)	5月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)			6月の米中古住宅販売
7/25 (火)	金融政策決定会合議事要旨(6月15,16日分 8:50)	40Y 5,000億円 7/27発行		米FOMC(1日目) 5月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 7月の米CB消費者信頼感指数
7/26 (水)	広島県金融経済懇談会にて中曽副総裁講演 6月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 8/3借入		米FOMC(2日目) 6月の米新築一戸建て販売件数 4-6月期の英GDP速報値
7/27 (木)		TB3M 44,000億円 7/31発行	2Y 22,000億円 8/15発行	6月の米耐久財新規受注
7/28 (金)	決定会合における主な意見(7月19,20日分 8:50) 6月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 6月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 7月都都区部・6月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 6月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 6月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)			4-6月期の米GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/24 (月)	▲ 200	▲ 700	▲ 900	全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 1,300 ▲ 200	1,300 700	500	▲ 400	TB3M発行▲44000償還42000 交付税借入▲10500期日10500
7/25 (火)	0	▲ 4,000	▲ 4,000	短国買入		15,000	15,000	11,000	流動性供給▲5500
7/26 (水)	▲ 1,000	3,000	2,000				0	2,000	
7/27 (木)	▲ 2,000	▲ 3,000	▲ 5,000	社債買入		1,500	1,500	▲ 3,500	40Y発行▲5000 交付税借入▲10500期日10500
7/28 (金)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
週間合計	▲ 5,200	▲ 3,700	▲ 8,900	—	▲ 1,500	18,500	17,000	8,100	

7/24は日銀予想、7/25以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、特段の資金需給要因は無い。積み期間序盤であることから、様子見姿勢が続く、無担保コールO/N加重平均レートは軟調に推移すると予想される。

レポ市場は、月末まで閑散とした地合いに変化が見込めないことから、引き続きGCLレート水準は低めの推移が続くことが予想される。

短国市場は、27日に3M物の入札が実施予定となっている。堅調な地合いが継続するかどうかが目される。

CP市場は、26日にCP等買入オペが予定されている。27日が月末発行の応当日であることから、活況なマーケットとなることが予想される。

主要なイベントとしては、25～26日のFOMC、26日の4～6月期の英GDP速報値、28日の6月の全国CPI、4～6月期の米GDP速報値などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。